

令和 5 年度 東京都立八丈高等学校定時制課程 学校経営報告

東京都立八丈高等学校長

佐 藤 俊 一

1 今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動への取組と自己評価

	取組	成果と今後に向けて（自己評価）
学習指導	目標：グランドデザインに基づいた教育課程の充実と魅力ある教育活動、進路希望のより高いレベルでの実現を目指した授業の充実化 【方策と数値目標】授業満足度（肯定的評価）100%（令和 4 年度 98%）、各教員が自己の授業を録画し記録（年 2 回以上） ア 教員の資質・能力の更なる向上のため、個人の研鑽をはじめ、オンラインでの教員研修など、意図的、計画的、組織的な研修を推進する。将来のデジタル教科書や校務・採点支援システム化による IT 化、AI や ICT の活用を推進する。 イ 高大連携や地域と協働した探究的な学びを推進し、地域課題解決に挑戦する創造的な人材を継続して育成する。 ウ 島内の小・中学校との教科間及び学校間連携のため、町教委主催の教育研究会の各部会に参加するなどして、情報の共有化及び指導と評価の内容や方法の改善を図る。 エ IT 化推進や、ICT 機器の活用を推進する。 オ 全教育活動を通じて、オリンピック・パラリンピック教育を推進し、国際交流など八高のレガシーを構築する。 カ Hawaii の高校や大学と連携、姉妹校協定を推進し、教育内容の充実化、魅力化を推進する。	ア カリキュラムマネジメントを行い、教科、分掌、学年間での情報共有し組織的な授業改善の取り組みを推進できた。「学びの羅針盤」を生徒に説明・配布及び学校 HP へ掲載するとともに保護者会等で保護者へ周知を図り、家庭と連携した学力向上や募集対策などに活用できた。 イ 少人数を活かした対話的で深い学びの授業と図書館や ICT 機器を活用した主体的で深い学びの授業を実践した。TGG 等を活用したオンライン学習の取組を意図的・計画的に実施し、生徒の到達度に応じた授業展開を行った。進路希望に合わせて島嶼地区の高等学校が連携してオンラインチューターの活用を図った。 Teams や Forms 等、一人 1 台タブレットを活用して、生徒の主体的な学習を支援し学習習慣の定着化を推進した。学校設定科目「ベーシック」での「読む・書く・計算する」の作業を通してチャレンジ精神を醸成し基礎学力の定着を図った。 ウ 校内及び小・中学校の授業参観・授業研究、夏季休業中の出前授業の実践を全職員が行い異校種相互の系統的授業力の向上を図り、同時に地域社会の抱える問題や生徒情報の共有（DX 化の推進）等の共有・解決を図る方策が前進した。 エ ICT 機器を活用した授業づくりを推進した。 オ 八高祭終了後、生徒全員が学習成果を発表する機会を設け、探究学習を推進し個々のプレゼンテーション能力が醸成できた。 カ 令和 5 年度は 6 月にハワイ州ワイアケア高校生徒が来島（来校）し、定時制生徒も対面での交流を主体的に行った。

生活指導 ・健康づくり	目標：生徒の健全育成と心身の健康、体力の向上 【方策と数値目標】中途退学者ゼロ ア 特別支援コーディネータを中心に個別支援委員会を構築し生徒の相談活動の充実を図るとともに教員のカウンセリング技術向上を図る研修会を計画的に開催する。 イ 教科「人間と社会」では、探究学習・キャリア教育の視点から、生徒の進路学習や自己肯定感等をはぐくむ企画や工夫を「産学官民」連携して行う。また、地域への貢献活動を行い、地域を愛する心を醸成する。 ウ 第1年次において、構成的なグループエンカウターのプログラムを実施するなど、中途退学の未然防止を図る。 エ 食育リーダーと給食運営委員会・学校保健安全委員会が、生徒対象の講演会等を実施し、バランスのとれた食事の重要性を説き、食の重要性和健康、体力の向上の理解を深めさせる。 オ 国際的なコミュニケーション能力育成を図るため、TOKYO GLOBAL GATEWAY(TGG)等を利用した移動教室を実施する。	★退学者2名（7月1名、10月1名）。 ア 個別支援会議を週1回実施し、要支援生徒の把握に努め、SCと連携して生徒面談の実施及び支援の在り方等を全教職員が共有し、生徒対応・保護者対応を行った。 イ 地域の警察署・消防署と連携して、セーフティ教室を年3回以上実施し、規範意識・生命尊重・人権の精神を涵養している。主権者教育にも取り組み、選挙管理委員会の指導の下、校内で模擬選挙と投票を行った。 ウ 9月と1月に1,2学年でドラマケーションの手法を用いたグループエンカウターのプログラムを実施し、他者とのかわりについて学び自己を見つめなおすことにより、中途退学の未然防止を図った。 エ 旬の食材や八丈島の特産物を活用した給食メニューを工夫し、日本の伝統文化や季節的な行事等への理解の深化を図った。学校HPにも献立や給食写真の掲載を増やし、情報発信に努めた。 オ TOKYO GLOBAL GATEWAY(TGG)のオンラインVR教材を使って、学校(八高の教室)にしながら実践的な語学研修を行い、生徒の語学スキルの醸成と国際感覚の涵養が図れた。
進路指導	目標：系統的なキャリア教育の推進 【方策と数値目標】キャリア講演会年2回以上進路決定率100% ア 入学から卒業までのキャリア教育の全体計画に基づき、生徒が希望する進路の高いレベルでの実現に向けて、「最後まであきらめない」進路指導・進路学習を実践する。 イ 生徒の進路希望を高いレベルで実現するため、生徒一人一人の社会的、職業的自立に向けた基盤となる非認知能力や態度を育成する。 ウ 生徒の主体的な進路選択を支援するため、島内外の団体や公的機関と連携を図り、適切な進路情報の提供に努める。	★3/31 現在の進路決定状況(1社内定、3校(短大1,専門学校2)、島内アルバイト1,未定2) ア 進路希望の多様化と生徒の学力レベルに合わせた個別対応を図るため、始業前、放課後の補習・補講を行い、必要に応じてオンラインチューター制度の活用を組織的におこなった。 イ 進路選択に向けた面接指導、保護者会や保護者面談等の日程を授業公開や講演会の日程に重ねるなどの工夫をして効率化と充実化を図った。就労系YSWの活用と入学後早い時期からの意図的・計画的な進路学習を推進して生徒の進路実現を図っている。 ウ 島内外の就労先確保に向け、関係機関(八丈町商工会、ハローワーク飯田橋)と連携し適切な進路指導を行った。

特別活動等	目標:特別活動等の充実化とリーダーの養成 【方策と数値目標】部活動全員加入 ア 生徒が主体的に活動できる学校行事(特活の日)を展開し、生徒全員の参加を目指す。 イ 「特活の日」や「八高祭」等の特別活動を生徒が主体的に工夫・改善するとともに全学年対象で実施する教育活動を通して、「他者を認める」態度と「段取り力」を育成し、探究学習を推進する。	ア 部活動全員加入を達成した。八丈島の自然・気候や伝統を意識して、地域理解及び科学的な知識・技能の深化を図った。 イ 各行事をとおして、生徒会役員および実行委員生徒を育成し、生徒自身が学校行事等を企画・運営して「リーダーシップ」、「組織貢献力」の向上を図り、「達成感」を経験できた。
家庭・地域との連携協力・交流活動、学校広報活動	目標:ITや経営資源を活用した地域や保護者との連携強化 【方策と数値目標】HP更新月4回以上、島外保護者会年3回 ア X(twitter)とHPの更新で適時的な情報発信と広報活動の充実を図った。 イ 意図的・計画的な八高島留学生フォーラム等を実施して島外での広報活動を強化した。 ウ 学校運営連絡協議会及び学校サポートチームを活性化させ支援を定着させるとともに、募集・広報活動等、地域からの学校理解の強化を図る。	ア 島内(地域)向けの学校主催の対外的なイベントは「広報はちじょう」等の広報誌へ掲載を依頼した。学校HPの更新を月4回以上行った。空港等の島内公共施設への学校パンフレットの掲示と地区毎の青少年対策会議等で学校パンフレットの配布とPR活動を重点的に行った。 イ 島留学生フォーラム、島外保護者会(年3回開催)により家庭との協力体制を強化し、広報活動にも活用できた。 ウ 部活動を兼ねて天文施設を活用した学校開放の一環として「天体観測教室」を実施し、地域への広報活動にもつなげた。
学校経営・組織体制	目標:学校経営の適正化と組織の活性化 【方策と数値目標】前後超勤月45時間以上の職員ゼロ、いじめや生徒事故・体罰等の服務事故ゼロ ア 企画調整会議・教科会を中心とした学校経営を行い主幹教諭及び主任教諭を中心として、組織的に職務を遂行し適正な学校経営を行う。 イ ライフ・ワーク・バランスに配慮した勤務環境の下で業務の効率化を図る。 ウ 経営企画室による学校経営参画を推進し教育系職員と行政系職員とが連携して学校運営や施設管理を行う。 エ 管理職及びミドルリーダー層のマネジメント能力を向上させ、組織的な学校経営の強化を図る。	ア 学校として一体的な体制整備のため、SCやデジタル支援員等の専門スタッフの支援を得るとともに地域の専門機関との協働を通じた教育支援活動の充実を図った。 イ 在校時間の適切な把握と意識改革を推進した。教員の専門性が求められる業務を精選し、教員以外の者が担うことのできる業務の役割分担を見直し、IT化の推進を図り、教員の業務改善をさらに推進する。 ウ サービス事故の防止に向けて、管理体制の点検を行い意識定着のための職員研修を活用し、日常の注意喚起により教育公務員としての規範意識を醸成できた。 エ 資質・能力の向上、学校課題の解決に向けた校内研修及びOJTの充実と人材育成を計画的に行った。今後は個々の生徒の特性に応じて、青島特別支援学校八丈分教室との連携も積極的に進める。

(2) 重点目標達成率と次年度以降の課題と対応策

☆ 学習指導

- 授業の満足度（肯定的評価）数値目標 令和5年度目標 100%（未達成）

令和2年度実績	令和3年度	令和4年度	令和5年度
96%	96%	98%	99%
（次年度への課題）ICTを活用した「学びたくなる授業」の定着を更に進める。			

☆ 生活指導・健康づくり

- 部活動加入率 数値目標 令和5年度目標 100%（達成）

令和2年度実績	令和3年度	令和4年度	令和5年度
112%	120%	110%	120%
（次年度への課題）部活動の活性化、生徒主体の活動を推進する。			

☆ 進路指導

- 卒業時の進路決定率 数値目標 令和5年度目標 100%（未達成）

令和2年度実績	令和3年度	令和4年度	令和5年度
100%	100%	70%	71%
（次年度への課題）4年間を通じて生徒の適性を踏まえた指導の充実を図る。			

☆ その他の教育活動における 数値目標

- 中途退学者（進路変更者）令和5年度目標 0名（未達成）

令和2年度実績	令和3年度	令和4年度	令和5年度
0名	1名	0名	2名
（次年度への課題）入学前の学校との連携体制の充実、生徒一人一人に対応した支援策を図る。			

- HP・X(twitter) 更新回数 令和5年度目標 月4回以上（達成）

令和2年度実績	令和3年度	令和4年度	令和5年度
63・64回	38・65回	20・22回	50・62回
（次年度への課題）行事報告などを適時的に発信し、定時制課程のイメージ向上のため広報活動を行う。			

- 週当たり超勤時間 45時間超の教員ゼロ 令和5年度目標 0名（達成）

令和2年度実績	令和3年度	令和4年度	令和5年度
1名	0名	0名	0名
（次年度への課題）業務内容の見直し、会議時間の削減と効率化を推進し、定時出退勤を徹底する。			

(3) 令和6年度の重点目標

① 非認知能力育成への考察

新しい時代に必要な能力である非認知能力を日々の教育活動でどのように育てゆくか、令和5年度に引き続き考察と検証をすすめる。

② 計画的なキャリア教育の再構築

生徒の適性や能力を活かした進路の実現に向け、在学中四年間のキャリア教育の構築に全教員で取り組む。